

令和5年10月2日（月）

「ならぬことは、ならぬものです」
～ 会津藩仕（じゅう）の掟（おきて） ～

会津（福島県）では、この言葉をよく聞きます。これは会津藩士たちが子供のころに教えられていた「仕の掟」の最後の一文です。仕の掟は、今から10年前、綾瀬はるか主演の大河ドラマ「八重の桜」でも紹介された教訓集です。

現在でもこの仕の掟をもとにした「あいづっこ宣言」というものがあり、会津若松市内の子供たちは、皆すらすらと暗唱することができます。会津藩士の子供たちは、地区ごとに「仕」というグループが定められており、6歳から9歳まではこの「仕」に属しており、基本的に遊びも勉強も、この「仕」のグループで一緒に行います。「仕の掟」とは仕の中のルールで、毎日最年長である仕長がこれを唱和し、メンバーがきちんと守れているかどうか、確認しています。現代では、男女平等の観点から通用しないと思える内容も多々ありますが、薩摩藩の郷中教育の教えにも似ている気がしますので紹介します。

仕の掟は、下の七つです。

- 一．年長者の言うことに背いてはなりません
- 二．年長者には御辞儀（おじぎ）をしなければなりません
- 三．虚言をいふ事はなりません
- 四．卑怯（ひきょう）な振舞をしてはなりません
- 五．弱い者をいぢめてはなりません
- 六．戸外で物を食べてはなりません
- 七．戸外で婦人と言葉を交えてはなりません